

# 中村設計新聞

## 第九十一号

五月十五日 曇り

五月は所内で研修を行いました。  
『映画から建築を学ぶ』をテーマにし、  
映画鑑賞をしました。

### はじめに

五月は緊急事態宣言が出ていたので、外出しての研修を控え、「映画から建築を学ぶ」をテーマにし、午前中は『火天の城』を鑑賞し、安土城や木造建築について学び、午後からは3チームに分かれ、『ホーム・アローン』を鑑賞し、部屋の間取りを考えました。

### 『火天の城』鑑賞

#### レポート

安土城を建築する、という壮大なドラマをつい、ストーリーを追ってしまいました。が、「木」は育った環境で使う向きを考えるとということが一番心に残りました。

子どものころから「木」は身近過ぎて考えたことも無かったことをいろいろ考えた映画でした。専門外ですが、設計という目線で見るともつと違う見方も出来るんだと思います。

茶谷 勝子



### 『ホーム・アローン』鑑賞

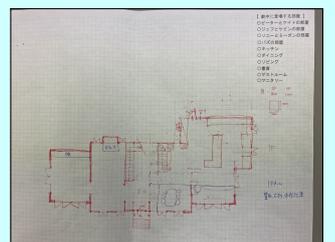
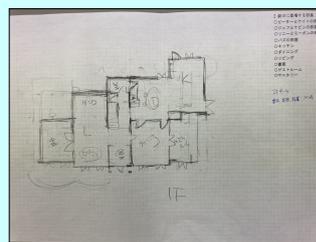
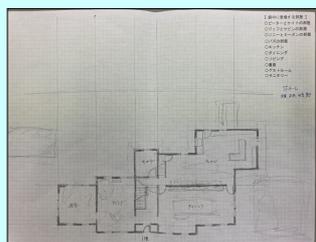
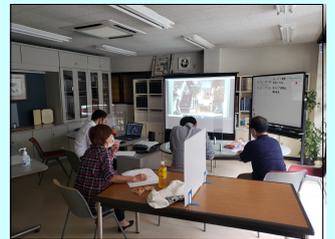
午後はホーム・アローンを鑑賞しました。ものづくりの設計では、さまざまなスキルや創作力が必要なのですが、その中の一つに「空間認識力」があります。空間認識力とは、頭の中で図形やモノを立体的に把握、認識できる能力で、この能力の高い人は、地図を読むことや、スポーツが上手だといわれています。今回、空間認識力を鍛えるべくグループでディスカッションをしながら劇中に登場する家の間取りを読み取り、間取り図を完成させ、そして最後に全員で答え合わせをしました。

#### レポート

「ホーム・アローン」を繰り返し鑑賞しながら、二階の家族の部屋割りの一階のLDK・書斎・ゲストルーム・サニタリーの位置を確認。更に窓枠や家の構造等を考慮しながら図面に起こしていく過程を傍で直視し、流石設計士だ！と感嘆詞が口から幾つも飛び出してくらい納得しました。仕事への姿勢や工程の難しさを改めて感じました。

江原 一恵

### ～グループディスカッションと答え合わせ～



各グループの間取り図

### まとめ

今回は、様々な意見が飛び交い実りあるディスカッションを行うことが出来ました。今後も各所員イメージを図面化できる力を磨きあげ、日々の業務に活かしていきたいと思えます。